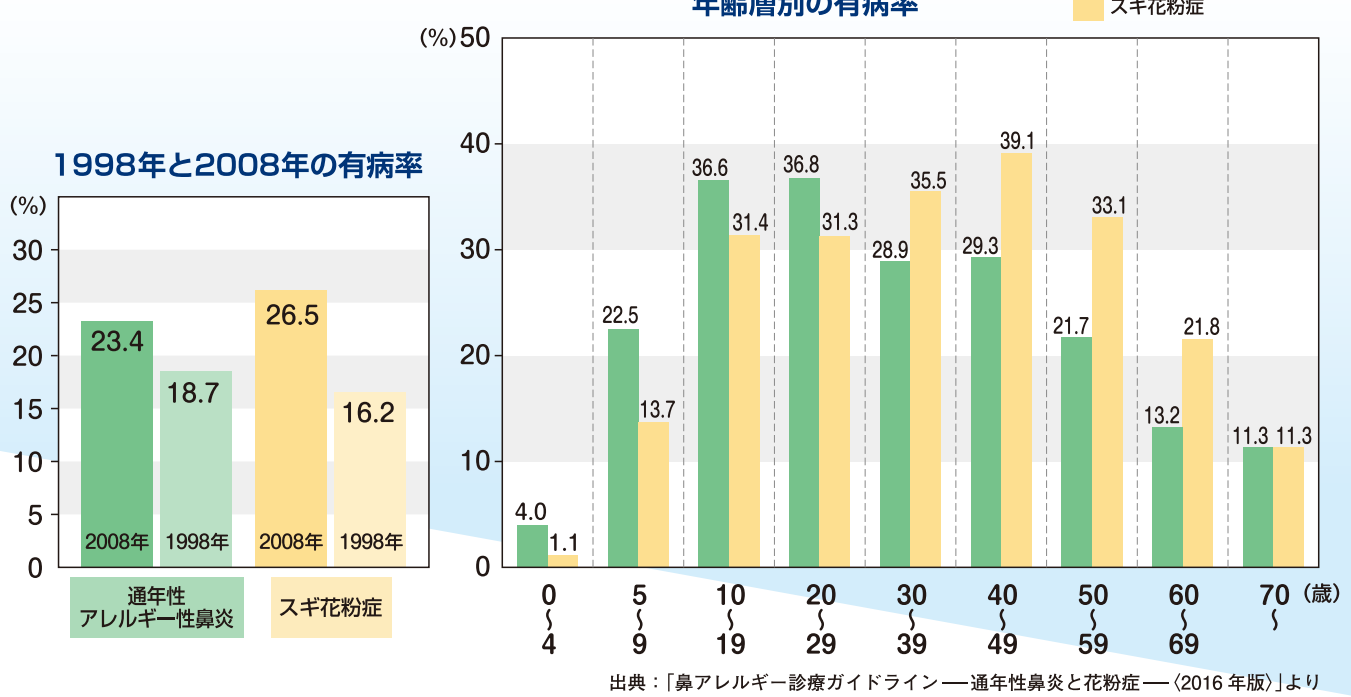


症状の改善はもちろん、アレルギー体質の

改善=根治がもたらされることも……!

普及しはじめた舌下免疫療法

アレルギー性鼻炎の有病率の推移



スギ花粉症だけでなく、ダニが原因の通年性アレルギー性鼻炎に対しても可能!



いまやアレルギー性鼻炎は日本の国民病

くしゃみ・鼻水・鼻づまりを症状とするアレルギー性鼻炎は、いまや国民病といえます。5人に2人の日本人がアレルギー性鼻炎に苦しみ、

悩んでいるからです。

アレルギー性鼻炎は、限られた期間だけにあらわれる季節性アレルギー性鼻炎と、症状が1年中あらわれる通年性アレルギー性鼻炎の2つに大きく分けられます。前者の季節性アレルギー性鼻炎の代表がスギ花粉症で、後者の通年性アレルギー性鼻炎の代表がダニを主な原因とする、ハウスダストによるアレルギー性鼻炎です。

現代の日本人はアレルギー体質になりやすく、年を追うごとにアレルギー性鼻炎が増えています。スギ花粉症も通年性アレルギー性鼻炎も増え続けています。とりわけ最近では若いうちからアレルギー性鼻炎を発症し、年を重ねていくにしたがって症状がひどくなる方が増えています。

過剰な免疫機能 Ⅱ
抗原抗体反応が原因

ご存じのように、人体は自らの体を守る免疫機能を備えています。そのなかでも重要なのが抗原抗体反応です。

すなわち細菌やウイルスなどの異物Ⅱ抗原が体のなかに侵入して感染すると、人体はこの異物を攻撃対象とする抗体をつくり出します。再び同じ異物が体内に入ろうとすると、抗体はこの異物を攻撃して感染しないようにします。これが抗原抗体反応で、抗体は抗原によって少しずつ構造が異なります。ちょうど鍵と鍵穴の関係を思い浮かべるとよいでしょう。

スギ花粉やダニが鼻の粘膜に付着すると、同じように体内でそれぞれの抗体がつくられます。そしてスギ花粉の抗体はスギ花粉を、ダニの抗

体はダニを鼻の粘膜から排出しようとしてくしゃみを誘発します。鼻水の分泌を増大させ、鼻の外へ流出させようとしています。あるいは、これ以上スギ花粉やダニが鼻の粘膜に付着しないように鼻の粘膜を腫らし、新たなスギ花粉やダニが鼻の中Ⅱ鼻腔に入らないように鼻の通り道を狭くします。

しかし、ときにこの抗原抗体反応が過剰となります。これが鼻のアレルギーⅡアレルギー性鼻炎で、過剰なくしゃみ・鼻水・鼻づまりを引き起こすのです。

くしゃみ・鼻水型と「鼻づまり型」の2タイプ

アレルギー性鼻炎は、くしゃみや鼻水がひどい「くしゃみ・鼻水型」と鼻づまりがひどい「鼻づまり型」の2つのタイプに分けられます。

重症度は、1日のくしゃみの回数や鼻水の量(鼻をかむ回数)、鼻づまりの程度により、①最重症、②重症、③中等症、④軽症の4段階に分けられます。ちなみにアレルギー性鼻炎でクリニックや病院を受診する

薬物療法と手術は対症療法だが、手術の効果は劇的!

アレルギー性鼻炎の治療法には、基本的に除去・回避療法と、病院で受けられる療法として、薬物療法と手術、アレルギー免疫療法の3種類があります。

薬物療法は抗ヒスタミン薬や抗ロイコトリエン薬などの内服薬や、鼻噴霧用ステロイド薬などの点鼻薬で治療する方法です。症状を和らげ抑えたりする対症療法で、患者さんのアレルギー体質を変えることはできません。

近ごろは副作用が少なく、より効果的に症状を抑える薬が広く使われています。

手術は、レーザー手術や下鼻甲介手術、後鼻神経切断術などがあります。レーザー手術は鼻の粘膜表面を焼いて変性させ、くしゃみや鼻水、鼻づまりの症状を改善する治療法です。鼻の粘膜を焼きすぎない、安全な炭酸ガスレーザーを用いるケース

あなたのアレルギー性鼻炎の症状の重症度がわかります！

以下の3つの質問に該当するところにチェックを入れ、それぞれの症状のレベルを突き止めてください。
 《(1)と(2)は、(1)くしゃみか、(2)鼻水=鼻をかむほうか、どちらか強いほうを選択します》
 次に下表(アレルギー性鼻炎症状の重症度分類)にあてはめると重症度が判明します。

- (1)あなたは1日に何回、くしゃみ発作が起きますか？**
- 21回以上 レベル5
 - 11～20回 レベル4
 - 6～10回 レベル3
 - 1～5回 レベル2
 - 1回未満 レベル1
- (2)あなたは1日に何回、鼻をかみますか？**
- 21回以上 レベル5
 - 11～20回 レベル4
 - 6～10回 レベル3
 - 1～5回 レベル2
 - 1回未満 レベル1

- (3)あなたの鼻づまりの程度はどのくらいですか？**
- 1日中、完全につまっている レベル5
 - 鼻づまりが非常に強く、口呼吸が1日のうち、かなりの時間ある レベル4
 - 鼻づまりが強く、口呼吸が1日のうち、ときどきある レベル3
 - 口呼吸はまったくないが鼻づまりがある レベル2
 - レベル2未満 レベル1

アレルギー性鼻炎症状の重症度分類

程度および重症度	くしゃみ発作、または鼻をかむ回数				
	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
鼻づまり	レベル5	最重症	最重症	最重症	最重症
	レベル4	最重症	重症	重症	重症
	レベル3	最重症	重症	中等症	中等症
	レベル2	最重症	重症	中等症	軽症
	レベル1	最重症	重症	中等症	軽症

出典：「鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症—(2016年版)」より



に対する舌下免疫療法は、スギ花粉が飛散しなくなった時期に治療を開始します。まず最初の2週間で徐々に投与量を増やしていき、3週目以降は毎日自宅で投与を続けるようにします。「シダトレン」の2000J AU/mlパットの全量(1ml)を1日1回、舌下(舌の裏)に垂らし、2分間保持した後、飲みこむだけでよいのです。最低でもこれを2年間、通常は3～5年間継続します。

すばらしいのは「シダトレン」を用いた舌下免疫療法の治療効果です。スギ花粉症の患者さん531人を対象にした臨床試験で、「シダトレン」を投与した患者さんのうち、その約

8割にくしゃみ・鼻水・鼻づまりなどの花粉症の症状が和らいだのです。加えて、第1シーズン目で花粉症の症状が消失し寛解した患者さんは2・3% (261人中6人)、第2シーズン目に寛解した患者さんは17・0% (241人中41人)にもなったのです。

一方、副作用として口のなかの痒みや唇の腫れ、喉の痒み、頭痛などが見られます。また、重篤な副作用としてアナフィラキシーショックの出現や、約2割の患者さんに治療効果が見られなかったと報告されています。

「ミティキュア」や「アシテア」を用いるダニが原因の通年性アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法は、いつでも治療を開始することができます。

「ミティキュア」は投与開始後1週間、「ミティキュア(3300J AU)」を1日1回服用し、舌下に1分間保持します。その後、5分間はうがいや飲食を控えます。投与2週間目以降は「ミティキュア(10000J AU)」を1日1回、同じように舌

が多いといえます。再発するケースも少なくありませんが、治療効果は薬物療法と比べると劇的です。

下鼻甲介手術は鼻の骨(下鼻甲介の骨)を取り除くことで下鼻甲介を縮小させ、鼻づまりを改善する手術です。くしゃみや鼻水も減少します。現在は、内視鏡を用いることで安全に行えるようになりました。

後鼻神経切断術は、内視鏡を用いて、鼻腔に広がるすべての神経を切断する手術です。鼻水の分泌を8割抑えられるといわれます。

最近、普及しはじめた舌下免疫療法に注目！

最近、もっとも注目されているのがアレルギー免疫療法です。スギ花粉やダニなどの抗原(アレルギー)を体の中に入れて、アレルギー体質を改善することで症状を和らげる治療法です。

最初ごく少量の抗原を体内に入れ、徐々にその量を増やしていきます。2～3年以上の期間を要しますが、アレルギー体質を改善する根治療法として、熱い期待が寄せられています。

います。

アレルギー免疫療法は、定期的に皮下へ注射で抗原を投与する皮下免疫療法と、舌の下(口腔底)に薬を含む舌下免疫療法があります。前者の皮下免疫療法は以前から行われていましたが、いま注目を集めているのは、最近普及しはじめた後者の舌下免疫療法です。注射を受けねばならない皮下免疫療法と比べ、薬の服用だけで済むなど手間がかからないからです。加えて、アナフィラキシーショックのような重篤な副作用もほとんど起こらず、安全にアレルギー体質の改善が望めるからです。

対象はスギ花粉症とダニが原因の通年性アレルギー性鼻炎

舌下免疫療法は「シダトレン」(鳥居薬品)という液体の薬を用いるスギ花粉症に対するそれと、「ミティキュア」(鳥居薬品)や「アシテア」(塩野義製薬)という錠剤を用いる通年性アレルギー性鼻炎に対するその2つがあります。

「シダトレン」を用いるスギ花粉症をわれない患者さんも2～3割います。事前に、1人ひとりの患者さんごとに、治療効果が得られるか否かを、確かめることはできないのが残念なところですが。

いずれにしても、舌下免疫療法をはじめ、アレルギー免疫療法は最低でも2～3年は続けなければなりません。できるだけ長く続けたほうが治療効果は得られやすく、その効果も長く続く報告されています。

何よりも、アレルギー免疫療法は患者さんのアレルギー体質を改善、アレルギー性鼻炎の根治の道を開く可能性が大きい画期的な治療法です。インターネット上に掲載されている「アレルギー免疫療法(舌下免疫療法)を相談できる病院検索」(<http://www.qilifeweb.jp/daniallergy/>)や「ダニアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法相談施設」(<http://www.torii-ai.jp/mapsearch/mitehtml>)などから最寄りの医療機関を検索し、受診して舌下免疫療法について相談してみるとよいでしょう。

※舌下免疫療法は、経験と薬剤に十分な知識を持つ受講修了医師のみが処方可能です。

症状の改善もたらされるのは7～8割の患者さん

「アシテア」は1回1000単位の「アシテア」を1日1回の舌下投与から開始し、1回投与量を1000単位(1R)ずつ、3000単位(1R)まで増やしていきます。漸増期間は原則として3日間としますが、患者さんの状態に応じて適宜延長します。漸増期間を終えた後は、「アシテア(3000単位)」を1日1回舌下投与し続けます。

いずれも舌下投与後は完全に「アシテア」が溶解するまで保持した後、飲みこみます。その後、5分間はうがいや飲食を控えます。

ダニが原因の通年性アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法はもちろん、アレルギー免疫療法の治療効果は、7～8割の患者さんに症状の改善がもたらされます。アレルギー体質が改善し、症状が完治する患者さんは2～3割といわれますが、その効果は驚くべきものといえます。

ただし、治療効果がまったくあら